



亀の森見守り隊（橘町）

近年の少子化や核家族化、地縁・血縁のつながりが希薄になるなどの社会変化の中で、家庭での子育ての負担や悩みが大きくなっている。そのような時代に、子どもを「地域の宝」として地域全体で育てていこうと取り組んでいる「亀の森見守り隊」の皆さん。子どもが安全な環境の中で、安心して教育を受けられるように、通学路で下校時の見守り活動を行っている。

会員の皆さんは、学校がある日は毎日、橘小学校的下校時間に合わせて、通学路の要所々に立ち交通指導をしている。子どものようなすわうかがって異変がないか成長を見守りながら、声掛けし積極的に関わることを心掛けている。代表の山本 健さん（79歳）は「こちらから声を掛けて、子どもの中から元気を引っ張り出します」と笑う。



児童を見守る



笑顔で声掛け



通学路の要所で交通指導



「海遊祭り」での工作教室

結成のきっかけは、平成17年に全国で児童らを狙った凶悪な犯罪が多発したこと。また橘町は、町中に国道が走っているため津波や高潮の危険性が高い。「自分らの地域の子は自分らで守る」。橘公民館から呼びかけて有志を募り、見守り活動を行った。以来12年も継続している。また、夏休みには地元イベント「海遊祭り」で工作教室を開き、子どもと交流して顔を覚えてもらうようにしている。

「寒い日や暑い日は、立っているのも辛いけど、児童とあいさつしたりハイタッチしたりすると、エネルギーをもらえます。子どもは町の将来を担います。元気に、真っ直ぐに育ってほしい」と話す。地域のおっちゃんには橘っ子の健やかな成長を願って、今日も子どもたちを見守っている。